

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川 建三

JR東労組

本部OB会

ニュース

No. 204 2014年 8月発行

退職者連合第18回定期総会報告

安倍内閣の暴走にストップをかけ 安心して暮らせる社会をつくる方針を決定

JR東労組OB会の大熊氏が議長団で総会をリ



退職者連合第18回定期総会(全景)

退職者連合は7月15日、連合会館・大会議室で全国から集まった役員、代議員、来賓ら200名で、「第18回定期総会」を開催しました。

来賓には連合より古賀会長、民主党より大島幹事長、社民党より福島前党首の三人が出席し、挨拶をしました。また中央労協、労金協会、全労済の各代表も紹介されました。

総会の議長団には、JR総連OB連絡会の大熊会長(JR東労組OB会)とN退協の柴田氏の2名が選出され、議事をスムーズに進めました。

「顔の見える運動」を訴える阿部会長

退職者連合を代表してあいさつした阿部会長は、「安倍政権の横暴な政治にしっかりと対決し、当面100万退職者連合を目指しながら、健康長寿で社会貢献に取り組み、地域で顔の見える運動を進めよう」と力強く参加者に訴えかけました。

提起された活動方針は

退職者連合は、今年度の活動方針(案)の主旨を次のように述べています。

高齢者の生活は年金減額の一方で増税、介護・医療保険の負担増や給付の抑制などで厳しい中、「全世代型支援の社会保障で、働くことを軸とする安心社会」の実現を目指し、「信頼される社会勢力」として自らの運動を地域社会に広く定着させていくとしています。

具体的には、3・11を風化させない活動、原子力エネルギーに依存しない社会の実現、社会保障関係要求実現の取り組み、300万会員の実現、低所得高齢単身女性問題の解決等が、提起されました。

活発だった質疑応答

今年の定期総会の質疑応答は、今までで一番発言が多く、中央組織からはJR総連OB連絡会と鉄道退職者の会全国連合会(国労)、地方組織からは初めて発言する東京や北海道などの8人からありました。発言の主なものは

- ・ 集団的自衛権は絶対に認めない
 - ・ 自民党寄りの民主党議員は、出て行ってもらっても結構だ
 - ・ 来年の統一地方選では、公開質問状を出して推薦を決める
 - ・ 9・15全国高齢者集会の日程や、デモコースを再検討してほしい
 - ・ 地方代議員の数を増やしてほしい
- など、以前より踏み込んだ具体的な意見が多く出されました。これは昨年までと違った点であり、退職

者連合の運動に、皆が大きな期待をかけていることを表しています。

JR総連OB連絡会からは、伊藤事務長(JR東労組OB会)が「安倍政権は、NHKの「クローズアップ現代」の放送内容にも口を出すほど、国民の日常生活の中に浸透して来ている。ボケる事なく、現代社会の動きに敏感に反応して行きたい。退職者連合が取り組んだ国会傍聴行動は、社会保障制度を勉強するいい機会になった。今後は院内行動と合わせて、国会前や首相官邸前などの院外大衆行動の取り組みの検討をお願いしたい」と発言しました。

高まる行動する退職者連合への期待

JR東労組は、3年前から地域の退職者連合へ加盟する取り組みを行なってきました。折しも退職者連合も、300万組織を目指して組織拡大の取り組みを開始した時期と丁度重なりました。これからも、地方組織への加盟については、進めていきます。団塊世代が後期高齢者世代になるのが10年後です。まさしく超高齢化社会が間近にせまってきた今日、社会保障制度の問題は、生きて行く上で切っても切り離せない切実な問題です。この問題の解決のためには、退職者連合が中心にならなければなりません。そのためにJR東労組OB会は、しっかりと支えましょう。退職者連合、がんばれ。そんな声が聞こえて来そうです。

新潟地本OB会「たしろかおる激励行動」報告 16時間の長旅も何のその!! 国会へバスで一番乗り

時間が少なく・・・

7月25日午前8時25分、晴れ渡った長岡駅前から女性6名を含む42名の激励団を乗せ、貸し切りバスは一路参議院議員会館へ向け出発しました。

バスの中は、顔見知りが多く和やかな雰囲気です。「たしろ議員」の活躍ぶりを紹介したDVDを見たり、配布された資料などで学習しながら過ごしました。

途中休憩を3回とるなど、関越道は予定通り順調でしたが、首都高が渋滞との情報が入ったため、一般道に降りて議員会館を目指しました。そのために議員会館の到着予定時間の12時50分を大幅に遅れる中、片桐中執本部OB会伊藤事務局長と川崎事務局次長が、炎天下の中で歓迎の横断幕を掲げ、バスの到着を迎えて頂いたことに参加者は感激しました。

国会議員激励 東労組新潟地本OB会



情勢を熱く語るたしろ議員

バスから降りた参加者は、参議院議員会館の地下一階にある会議室で、たしろ議員より、政治姿勢と現在進めている取り組みの話の話を聞くことができました。

特に「解釈改憲のもとで、集団的自衛権行使容認」に対し、超党派で「立憲主義を守る闘い」を行っている事、また、社会福祉が充実し「人が大切にされる社会を目指したい」との発言に一同は真剣に聞き入っていました。

また途中で新潟選挙区の田中直樹参議院議員が現れるサプライズもあり、たしろ議員と国土交通バス議連でコンビを組んで頑張っていると自己紹介がありました。

会場では、たしろ議員の話の聞いて意見交換しようとして準備していたOB会員もいましたが、時間がなくてできませんでした。

その後、激励団一行は「たしろかおる議員」と記念の集合写真に収まり、2年後の再選を確認し合いました。

帰りのバスの中では、「もっと意見交換する時間が欲しかった」「原発問題の事が聞きたかった」「身近にたしろ議員を見てよかった」「また開催してほしい」「回りの人に、今日の話をする」等の感想が述べられました。



たしろ議員を囲んで記念写真の新潟地本OB会激励団の皆さん

苦勞したが、充実感も

今回の取り組みは、本部OB会の定期総会で決定された方針に基づいて、新潟地本OB会の役員会や幹事会等で議論を重ね、いくつかの課題を克服してやっと実現されました。新潟は東京から距離があるため「出発地をどこにするか」「参加者が集まれるのか」「日帰り強行軍で健康は大丈夫か」等様々な声はありましたが、帰りのバスの中は「国会に行き、たしろ議員と話し合えた充実感」でいっぱいでした。

(新潟地本OB会)

OB会が最高裁要請行動に参加!!

7月22日、美世志会の上告審での逆転勝利を目指した最高裁に対する「浦和電車区事件を支援する首都圏退職者の会」の要請行動に、本部OB会と首都圏のOB会員16名が美世志会の上原代表とともに参加してきました。

昨年12月11日「地位確認等請求事件」控訴審での不当判決に対し、最高裁に「上告理由書及び上告受理理由書」を2月に美世志会が出して以降、口頭弁論の開催を求める約30回を超える要請行動の一環として、首都圏在住のOB会員を中心に取り組んできました。

当日、集まった会員は、対応の訟廷主席書記官補佐に「裁判の不当性」「憲法に保障された団結権」「公正な口頭弁論の開催」など各自がそれぞれの思いを訴えました。



要請行動に参加したOBの皆さん

その後一行は、「たしろ議員」激励のため参議院議員会館の事務所を訪れました。たまたま先着していた現役の青年部員と交流を行ない2年後に迫った「たしろ選挙」に向けた熱い意見交換を行ってきました。

東京地本OB会が 工務OB・エルダー・出向者の集いを開

東京地本OB会は7月21日、田端会議室で「工務関係OB・エルダー・出向者の集い」を25名の参加者で初めて開催しました。遠くは新潟県にある信濃川発電所からも参加があり、また現役の役員も参加し、有意義な集いとなりました。

この集いは昨年の本部OB会が開催した「工務職場OBの交流」の地方版を東京でつくろうと工夫して企画したもので、かつて分会の役員経験者を中心に声をかけました。

集いは森下事務局長の進行で進められ、工務職場から初めて地本書記長に就任した阿部書記長が講演をしました。『めくもりのある強靱な組織をつくらう!』と銘打って、日本の政治・社会の現実から目をそらさず、労働者の視点で平和を築いて行こう、そのために「たしろかおる選挙の取り組み」にご協力を、と要請されました。

これからも、工務の仲間が集まり旧交を温め、OBと現役の交流の場を創って欲しいと要望がありました。

その後懇親会に移り、盃をかわしながら次回開催を約束し楽しい一日を過ごしました。

(東京地本OB会)



阿部書記長を囲んだ工務職場の仲間